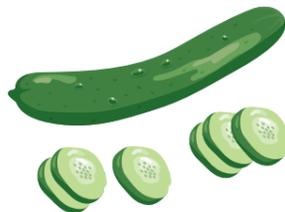


今月のテーマ | 米国ではキュウリを食べてサルモネラ中毒に？

今年も暑い日が続き、食中毒も多く報告されています。秋になったとはいえ、まだまだ油断はできません。

近年の特徴は寄生虫アニサキスによる食中毒件数が一番多いことでしょう。患者数としてはノロウイルスやカンピロバクター、ウェルシュ菌による食中毒が多く報告されています。他にも腸管出血性大腸菌O-157やサルモネラによる食中毒事例もあります。日本ではサルモネラというと鶏肉や生卵(特に割卵して翌日使用したものなど)といった印象が強いでしょう。しかし、米国ではかなり状況が異なります。



新鮮な野菜を食べて食中毒？

米国は言わずと知れた畜産業王国です。飼育生産段階においてもいろいろな食中毒菌が存在し、結果として食品を汚染して食中毒を発生させています。もともと動物の腸内細菌として生活しているサルモネラ属菌が、肉類や卵などを汚染し食中毒が発生するのは理解できますが、その周辺環境で生産される野菜果物も汚染され、新鮮な野菜を食べていたのに食中毒になったという事例が米国では発生しています。

の主流ですが、近年鶏卵生産管理も徹底して食中毒の発生は減少しています。しかし、米国ではネズミチフス菌(Salmonella Typhimurium)を含めいろいろな種類のサルモネラ属菌が原因となっています。キュウリの汚染ではSalmonella Poona、Salmonella Newport、Salmonella Saintpaulなどが報告されています。原因としては、キュウリなどの野菜を栽培する環境の近くに畜産業があり、発酵が不十分な肥料を使ったり、灌漑用水が汚染され、結果としてそういった環境で生育したキュウリが汚染されて食中毒が発生したと考えられています。

いろいろな種類のサルモネラ属菌が原因に

最近でもサラダやサンドイッチの材料のキュウリが原因のサルモネラ属菌による食中毒が発生し、注意喚起が寄せられています。他にもトマト、スプラウト、メロン、パパイア、ピーナッツバターなどが原因食品となっています。現在日本では欧州から持ち込まれたサルモネラ・エンテリティディス(Salmonella Enteritidis)がサルモネラによる食中毒

日本ではO-157による食中毒に注意

日本では、キュウリはサルモネラではなく、浅漬けなどの腸管出血性大腸菌O-157による食中毒の事例があります。食品製造時の食中毒予防は当然ですが、日本でも野菜栽培の環境変化に対応した衛生管理が必要な時期が来るかもしれません。またご家庭でも、野菜はしっかり洗ってから調理するなど、衛生管理に気をつけましょう。

新商品 コープあいちの組合員がモニターしました! ✨
国産芝えびとあみえびを使った『炊き込みご飯』9月1週にデビューしました!

商品特徴 国産芝えびむき身・国産ツノナシオキアミ(あみえび)を具材に、たまりしょうゆベースの炊き込みご飯のたれをセットにしました。2合のお米と一緒に、具材は凍ったまま炊けます。

組合員の声
 ●60代の私、30代の嫁、10才の孫娘といただきましたが、全員一致でおいしかったです。上品な味付けなので、お酒のあとに少しだけご飯という時にもぴったり。おもてなしにも使えそうですね。

国産芝えびとあみえびを使った炊き込みご飯の素 (2合用)
 凍 150g (具材110g+たれ40g)
 本体価格 498円
 税込価格 537円
 次回予定 10月4週

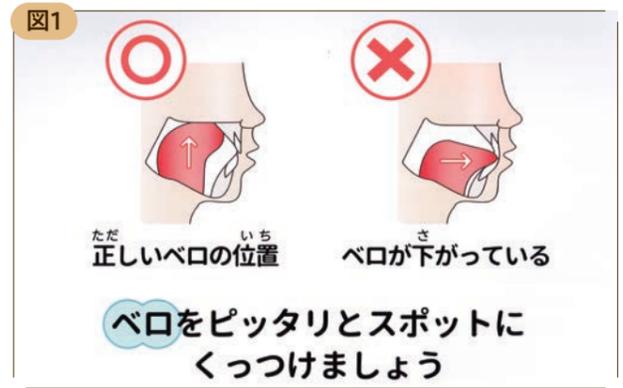
わたしのひとこと 職場で鈴虫を飼っています。まだ暑い日が続いていますが、鳴き声が涼しさ感じさせてくれます。(60代/岐阜市 ピンキーさん)

健康講座 今月の先生紹介 田中賢太郎氏 羽島市 たなけん歯科

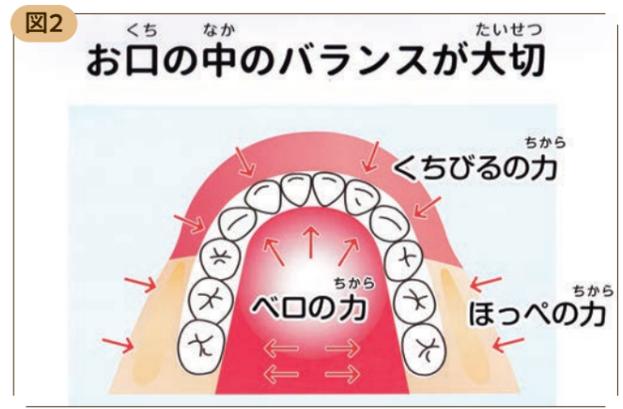
今月のテーマ 舌(ペロ)の位置で矯正治療回避できるかも

普段意識することがない方が多いと思いますが、安静時、舌と顎の状態には正しい位置が存在します。今回はその2点についてお伝えしようと思います。

舌は通常、上顎のところにるのが良いポジションだとされています(図1)。図だけだと分かりにくいので、唾を飲み込んでみてください。そうすると、自然と上顎のところに舌がついていることが確認出来るはず。その位置が正しい位置となります。



この正しい舌の位置にあるかどうか最も重要となるのは、10歳ぐらいまでのお子さんです。舌が正しい位置にあるかどうかで歯並びに影響します。この時期は上顎の骨が成長する時期で、適切な顎骨の成長に関わってきます。また、歯列のアーチは舌と頬によって囲まれることにより、適切な形を形成します(図2)。そのため、舌が正しい位置になれば、きれいな歯列アーチが形成されません。



もし、舌が上下の歯の間にあたり、舌を前へ突き出す癖があった場合、開咬と呼ばれる前歯が噛みあわない歯並びの原因となります。

舌が下の歯の位置にあった場合は、受け口、もしくは舌が弛緩した状態ですと叢生と呼ばれるガタガタな歯並びの一因となる可能性があります。下顎は背が伸びる時期、中高生の時期まで拡大するので、この癖が残っていると、より受け口が拡大していきなり受け口になってしまう原因ともなります。

舌とは違いますが、ポカンと口が空いた状態で過ごしているのも、頬から受ける筈の圧が適切に受けられず、ガタガタな歯並びの原因となります。

小さいお子さんは近年の食生活の変化、マスクを常時着用している影響で、口を大きく動かしたり、舌を動かす機会が減っています。口を閉じたり、舌を上に乗せているには筋力が必要になってきますので、足りない場合はトレーニングして補う必要があります。上記の正しい舌の位置を補正する道具として、プレオルソ(図3)という装置があります。取り扱いがある歯科医院でご相談ください。保険適応外の装置となります。



顎の位置ですが、安静時には上下の歯が数mm空いている状態が良いとされています。もし、接触している状態ですと、様々なトラブルが発生してきます。歯が接触してしまっている状態をTCH(Tooth Contacting Habit)と呼びます。歯に痛みが出たり、歯が欠ける折れる、口を開けると痛い、口が開かないといった病的な状態の原因となります。

上記の問題は、顎関節症や小児矯正の取り扱いのある歯科医院では歯医者の方野として対応できますので、たなけん歯科もしくはお近くの歯科医院へお問い合わせください。

定年を迎え、自宅でのんびり過ごす日が多いのですが、定年したらやりたい(やろう)と思ってたことがどうでもよくなってしまい、気分が重いです。涼しくなったら出来るのかなあ〜? (60代/多治見市 ミーちゃんさん)

わたしのひとこと